

Poema de Fernán González IV

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

Fernán González, son of Gonzalo Fernández, count of Arlanza and the Duero, was born in the first years of ninth century near Burgos and died in 970. This legendary count of Castile grew up in the castle of Lara.

Defying Ramkro II of Leon, Sancho II of Navarre and fighting with Muslims in the midst of Reconquista, he established, being imprisoned two times, the Foundations for the later independence of Castile, which was only a frontier of Kingdom of Leon.

He died after a turbulent life and his remains were buried in the monastery of San Pedro de Arlanza which was founded by himself.

The poem of Fernán González was written between 1250 and 1271 and is written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way), style of which has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This time, according to Edición de Juan Victorio, translation is made from the strophe 606 to the last 760.

フェルナン・ゴンサレスの歌 IV

翻訳 太田強正

フェルナン・ゴンサレス (Fernán González) はスペイン北部ブルゴス (Burgos) にほど近いララ (Lara) の有力者の家に 10 世紀の初め頃生まれ、幼少期をララの城で過ごした。時はアラブに占領された国土の再征服 (Reconquista) の時代で、レオン (León) 王国の辺境にあったカスティリヤ (Castilla) 地方に生を受けたフェルナン・ゴンサレスは伯爵として後に世界に号令することになる大帝国スペインの母体となるカスティリヤ伯爵領の基礎を築いた人物である。

因みにカスティリヤとはアラブとの前線で城 (castillo) の多くある地方の意である。

数々の伝説に彩られた英雄である伯爵は非常に抜け目のない人物であったようで、レオン王国の混乱とアラブに対する勝利に利を得てカスティリヤを独立に導いた。

しかしレオン王国のラミロ (Ramiro) 二世やナバラ王国のサンチョ (Sancho) 二世などと対立し二度の投獄の憂き目にあっている。

この叙事詩は伯爵自身が建立したサン・ペドロ・デ・アルランサ (San Pedro de Arlanza) 修道院の無名の修道士によって 13 世紀後半に書かれたものと言われ、史実と異なる箇所が (例えば伯爵はコルドバ <Córdoba> のカリフ王国 <後ウマイヤ王朝> の実質的独裁者アルマンソル <Almanzor> と戦ったことになっているが時がずれていて合わず、実際は戦ったのはアブデラマン <Abderramán> 三世であった) 数々ある。

作品はメステル・デ・クレレシーア (mester de clerecía) と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人 (jugulares) によるメステル・デ・フグラリーア (mester de juglaría) と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア (cuaderna vía) と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩である。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

今回は Edición de Juan Victorio を用い第 606 連から最終第 760 連までを掲載する。

606 その時彼らはカスティリャに非常に大きな苦しみをもたらしました
た

多くの喪服と多くの壊れた小聖堂

傷付いた多く額と多くの頬

各々心に大きな傷を負いました

607 泣きながら彼らは言いました：《我々是不運だ》

創造主に大きな不満をぶつけました

《創造主は我々が苦境からも悲しみからも抜け出すことを望んでいない

我々と民が奴隷であることを望んでいる

- 608 我々は神に対して非常な怒りを持っているカスティリヤ人です
なぜあなたはこんなに大きな苦しみを我々に与えようとするので
すか
我々はスペインのすべての人の怒りの的になりました
カスティリヤは哀れな小屋になりました
- 609 我々は他の人に我々の苦悩を言うことができません
我々の声を聞くべき創造主以外には
伯爵と共に我々はこの苦悩から抜け出したいと思っていました
この苦悩に我々は先刻陥りました》
- 610 我々はカスティリヤ人たちをその深い苦悩のうちに残しておきま
しょう
我々はすぐに彼らのところに帰ってくることになります
彼らは助言し合うために一つになりました
彼らを結びつけておきましょう、我々をしっかりと思い出すに違い
ありません
- 611 伯爵を残してきた場所に戻りましょう
彼はカストロ・ビエホの牢に入れられていました
ナバラの人々に彼はしっかり見張られていました
人がこれ以上酷い牢獄に入れられたことはありませんでした
- 612 この土地の人々はすでに聞いていました
この人以上の武器の使い手はないと
彼を知った人は最高に幸運だと思い

見たことない人は見たいと思っていました

- 613 ロンバルディア出身の非常に誉れ高い伯爵が
巡礼に出ようと思い立ちました
家臣の中から優秀な騎兵たちを選び
サンティアゴに行くために旅に出ました
- 614 そのロンバルディア出身の伯爵は道中
フェルナン・ゴンサレス伯爵についてどの地にいるのか尋ねまし
た
人々はすぐに確かなことすべてを伝えました
彼がどのように捕らえられ、そしてどんな方法でそうなったのか
を
- 615 彼は確かにそのすべてのまやかしのことを尋ねました
カスティリヤの人々がどのように大きな損害を受けたのかを
《彼は善意で、まやかしなしで集会に連れて行かれました
そこで彼は捕えられました、もう一年以上前に》
- 616 彼はどうかしてゴンサレス伯爵に会えないか尋ねました
伯爵と知り合いたいと思っていたからです
何か打つ手はないかと思い巡らしました
というのはそのような人物を投獄しておくべきではなかったから
です
- 617 カストロ・ビエホに行き門番たちに頼みました

多額の金を与えると約束しました

.....

騎士二人だけを伴って彼に会わせるように

618 門番たちは彼を城に連れて行き、門を開けました

二人の伯爵はお互いを大歓迎し

両者は長い間話し込みました

話が終わるとやがて別れました

619 二人は泣きながら別れ

フェルナンド伯爵は牢獄に留まりました

大いに苦悩し、多くの苦難に耐えながら

神がそこから出してくれることを願い続けて

620 そのロンバルディアの伯爵は別れても

決してカスティリヤの伯爵を忘れませんでした

事の起こりである乙女⁹⁹⁾を尋ねました

どのようにゴンサレス伯爵が彼女の夫になるはずだったのかを

621 すぐに美しい乙女が彼に示されました

とても美しいので驚きでした

彼はすぐに彼女と内密に話をして

いかにして彼女の事で非常に大きな不満があるのか告げました

622 《ご婦人—と伯爵は言いました—あなたは非常に不運な方です

あなたの一族の中でこれ以上の不運はありません

あなたにすべてのカスティリヤ人たちが強い恨みを抱いています
この途方もない艱難があなたによって彼らにもたらされたのです
から

623 哀れみのない、事をよく知らないご婦人
あなたは善も悪も行う力をもっているのです
もしあなたが伯爵が死から逃れることを望まないなら
あなたの所為でカスティリヤはなくなるでしょう

624 あなたは異教の民を大いに助けているのです
なぜなら彼は彼らすべてから手足を奪っていたからです
あなたは全キリスト教徒からとても大きな気力を取り去っています
す
それでモーロ人たちは陽気に生き生きしています

625 あなたは名声をひどく損ねています
このことによってあなたは多くにの人に侮辱されるでしょう
このことが世界に知れれば
すべての罪は直ちにあなたに帰せられるでしょう

626 もしあなたがこの伯爵と結婚できたら
婦人たちはあなたを非常に幸運だと思い
スペインのすべての人からあなたはとても敬われるでしょう
こんな良い乗馬をした婦人はいないでしょう

627 もしあなたに良識があるなら、これが最良です

もしあなたが騎士を愛したことがないなら
それでもあなたは皇帝よりもこの男を愛すべきです
これ以上武術に長けた男は世界にいません》

- 628 伯爵は別れを告げ、自分の道に就き
サンティアゴに行き巡礼を果たしました
王女はこの知らせを送りました
彼女が深く愛していた婦人の一人と共に
- 629 その女の使者がすぐに伝言を持って戻って来ました
《非常に悩んでいる伯爵の苦悩の伝言を》
彼女は答えを持って急いで王女のもとに来て
王女がいかに伯爵を苦しめているか述べました
- 630 《伯爵が私に言ったことには私は非常に大きな悲しみを覚えまし
た
あなたに対して神に不平を言おうとしていました
あなただけがこの世から彼を取り去ろうとしているのだから
そしてあなたが望みさえすれば彼は逃げられるだろうと》
- 631 婦人は言いました：《王女様、あなたが持つべき信仰によって
あなたが伯爵のところに行って、彼を励ますように
このような伯爵を見捨てることがないように
もしこのような死に方をすれば、あなたは大きな罪を犯すことにな
るでしょう》

- 632 その時王女は婦人に答えました
《家臣よ、あなたにしっかり言うておく、私は自分を不運だと思
う
彼が耐えているすべての患難を私はとても悲しく思う
しかし彼を幸運だと思う時が来るだろう
- 633 私は伯爵に対してある事をしたい
私は彼の強い愛に降参するだろう
私は冒険して、彼に会いに行きたい
私の心をすべて彼に理解させよう》
- 634 すべてに完璧なサンチャ王女は
すぐに城へ行き、急いで上に登って行きました
彼女が伯爵を見た時、救われた感じがしました
《ご婦人—と伯爵が言いました—なぜいらしたのですか》
- 635 《良き伯爵よ—と彼女は言いました…これは良き愛のなせる事で
す
それは婦人たちから羞恥心と恐れを取り去ります
彼女たちは愛人のために両親を忘れます
その事に彼らは満足し、それを彼女たちは最良の事だと思います
- 636 伯爵、あなたは私への愛のゆえに非常に難儀しています
決して為にならない事のためにあなたは非常に心を砕いています
伯爵、嘆かないで安心してください
私はあなたが喜び満足してここから連れ出します

- 637 もしあなたがここから今すぐ出たいなら
私の手に忠誠と敬意を誓ってください
世の婦人の為に私を捨てないと
私のために祝福とミサをお願いします
- 638 もしこうしないなら、あなたは牢で死ぬことになります
分別のない男としてここから決して出られないでしょう
可哀想な人よ、もし理性があるなら考えてみてください
あなたは自分のせいでこのような婦人を失うことになるのかどうか》
- 639 伯爵がこれを聞くと、救われたと思い
心の中で言いました：《すでにそうになっていたなら》
《ご婦人—と伯爵は言いました—、私は真にあなたに言います
あなたは私の妻になり、私はあなたの夫になるでしょう
- 640 このことであなたを欺く者がいれば、その者が神に欺かれ
偽りの不信心者として人生を終えるように
ご婦人あなたにお願いがあります、どうかお願いします
あなたが言ったことを忘れないでください》
- 641 フェルナンド伯爵がすばらしいことを言いました
《もしあなたがこれを成し遂げることができるなら
あなたが生きている間は、わたしは別の妻を娶らない
もしこのことであなたに背いたら、聖母が私を見捨てんことを》

- 642 このことすべてを二人が確かめると
すぐに婦人はフェルナンド伯爵を牢から出しました
《行きましょう、ご主人、すべて用意されていますから
良き王ガルシアにバレることがないように》
- 643 彼らはフランス街道¹⁰⁰⁾を後にすることになり
檜の木の大きな林を左に曲がりました
フェルナンド伯爵は歩くことができなかったので
彼女が少しの間背負って行かなければなりませんでした
- 644 夜が去って朝になろうとしていました
誰にも見られる前に
彼らは深い山を見つけて身を隠しに行き
そこで夜を待ちました
- 645 我々は彼らをその茂みに残しておきましょう
あなたたちは神が彼らにどんなに大きな苦難を与えようとしてい
たか分かるでしょう
狩りに来ていた悪い司祭長によって
猟犬たちが彼らの足跡をつけてきました
- 646 犬たちはすぐに彼らが潜んでいる茂みに行きました
伯爵と婦人は非常に驚きました
悪い司祭長は彼らの混乱を見ると
あたかもアクレ¹⁰¹⁾とダミアタ¹⁰²⁾を手に入れたかのように喜び
ました

- 647 司祭長が彼らを見ると言い始めました
彼は言いました：《裏切り者たちよ、お前たちは行くことができない
良き王ガルシアから逃れることはできないだろう
二人とも悪い死に方をするだろう》
- 648 フェルナンド伯爵は言いました：《お願いだから、あなたの善良
さを見せてください
我々のこの秘密を守ってください
カスティリヤの中央の町を一つあなたにあげよう
あなたがいつまでも世襲財産として持てるように》
- 649 残酷さに満ちたその偽りの司祭長は
犬以上に慈悲心がありませんでした
彼は言いました：《伯爵よ、もし秘密にしておいて欲しいなら
婦人に対する私の望みを叶えさせなさい》
- 650 フェルナンド伯爵がこのような不謹慎な言葉を聞いた時には
槍で刺されたよりも苦しんだでしょう
《お願いですから、一と彼は言いました一、あなたは不謹慎なこ
とを求めているのです
あなたはわずかな労力で大金を求めています》
- 651 婦人は司祭にたいして抜け目がありませんでした
《司祭長よ、あなたは何が欲しいのですか、喜んで叶えてあげま
しょう

そうすれば私たちは二人とも命も領地も失うことはなでしょう
罪は私たち三人皆で償ったほうがいいです》

652 婦人は彼に言いました：《服を脱ぎなさい
伯爵があなたの服の番をします
そして伯爵がこのように非常に辛い場面を見ないように
司祭長よ、ここから離れた方が良い》

653 司祭長がこれを聞くと
非常に喜び、満足しました
この偽りの不信心者は恥を知りませんでした
彼は人を罠にかけようとして自分が罠にかかったのです

654 両者は少し離れました
司祭長はすぐに事を成し遂げたいと思い
彼女を捕まえて
両手を開いて彼女を抱きしめようとしてしました

655 非常に慎重な婦人であるサンチャ王女は
《—こんなに勇敢な婦人を人は見たことがありませんでした—》
彼のネッカチーフを掴んで強く引っ張り
言いました：《裏切り者よ、お前に復讐してやる》

656 伯爵は婦人を助けることができませんでした
なぜなら大きな鎖を付けていて歩けなかったからです
しかし短剣を手に彼らに近づき

二人でその裏切り者を殺しました

- 657 このように裏切り者が死ぬと
一創造主が決して彼を哀れむことのないように―
彼のラバと衣服と毛の生え変わったオオタカはすべて
神がもっと高潔な主人が持つことを望みました
- 658 彼らは一日中ラバをつないでおきました
昼が終わり、夜が来ました
静かな夜だとわかった
道の真ん中を歩き始めました
- 659 我々は彼らを道に残しておきましょう
もうカスティリヤのすぐ近くに来ていたのですから
カスティリヤ人とは言えば強力で機敏な人々です
とても調和などできませんでした
- 660 ある人々はある事を、他の人たちは他の事を望みました
首領のいない人々が非常に折り合いが悪いように
生まれつき知性を備えたヌニョ・ライネスが話をしました
彼は武術に優れ、主君に忠実な騎士でした
- 661 彼は非常に強い口調で謎めいた話を始めました
《我々は硬い石で主君の像を作ろう
まさに良き伯爵に似た像を
皆その像に誓いを立てよう

- 662 伯爵にするように、その両手に接吻しよう
像を車に乗せて、我々の前を運ぼう
良き伯爵のために、その像を主君と思い
我々は皆その像に臣従の誓いをしよう
- 663 カステイリヤの旗をその手に置こう
それが逃げないなら我々も逃げまい
伯爵のいないカステイリヤに我々は決して帰ることはないだろう
それより前に戻る者を我々は裏切り者だと思うだろう
- 664 伯爵が強いなら、我々は強い君主を頂いています
カステイリヤの伯爵を探しに行きましょう
皆そこに留まるか、ここに彼を連れてきましょう
このことが遅れれば、我々は非常に信用を落とします
- 665 カステイリヤの伯爵に我々は非常な名誉を与えています
伯爵は日々評価を高め、我々は信用を落としています
彼は戦い、我々は決して戦わないように見えます
我々がこんなに罪を犯していることをキリストがお許しください
ますように
- 666 我々が一人の騎士にどんな名声を与えているのを理解しましょう
我々は三百人以上もいて彼はたった一人です
そして彼なしでは我々は価値がありません
人はわずかな時間で評判を失うものです》

- 667 ヌニョ・ライネスが話し終えると
子供も大人も心から喜びました
彼らは直ちに良き小郷士に答えました
《我々は皆大いに道理のあることを承諾します》
- 668 彼らは以前に言われていた通りに伯爵の像を作りました
伯爵と同じ姿に似せて
彼らは像を非常に頑丈な木でできた車に乗せました
車に積むと道に出ました
- 669 大人も子供も皆石像に誓い
主君のようにそれに寄り添いました
ナバラに行くために道を進み
最初の日にアルランソン¹⁰³⁾に着きました
- 670 翌日その良き一隊
その非常に名誉ある主君、その非常に類稀な旗は
険しい山のオカの山脈¹⁰⁴⁾ を通って行きました
それらはスペインの中でも素晴らしい大きな山々でした
- 671 非常な難儀を被ったカスティリヤの騎士たちの一団は
再び一泊するためビルフォラド¹⁰⁵⁾に行きました
彼らは神に願ったような宿泊場所を見つけ
翌日夜明けに出発しました
- 672 1 レグア¹⁰⁶⁾ も行く前に

夜が明け、昼になりました
伯爵は夫人共々非常に疲れていて
旗を目にするとすっかり氣力を失くしました

673 旗を先に見た夫人は非常な恐怖を覚えました
すぐに彼女は言いました：《どうでしょうか、ご主人様
私には大きな旗が見えますが、色が分かりません
私の兄弟¹⁰⁷⁾のものでしょうか、それともアルマンソルのもので
しょうか》

674 二人は苦境に立たされ、どうしたらいいのか分かりませんでした
身を隠せる山も見当たらず
苦境の中でどんな手段を取ったらいいのか分かりませんでした
隠れ場所が見つからなかったからです

675 彼らはこんな大きな苦難に遭ったことはありませんでした
できるなら山に隠れ
小屋にでも身を潜めたいと思いました
伯爵は旗と部隊も見ていました

676 伯爵は武器から彼らがキリスト教徒であることを知りました
武器はナバラのものでも、異教徒のものでもありませんでした
彼はカステイリヤの人々のものと分かりました
彼らは異教徒の手から君主を奪回しようとしていたのです

677 《ご婦人—と伯爵は言いました—、それ故何も心配はいりません

あなたの手は彼らによって接吻されるでしょう
旗とあなたが見ている武装した人々
あれは私の旗で、彼らは私の臣下です

- 678 今日私はあなたをカスティリヤの民の女主人にしましょう
皆あなたに喜び満足するでしょう
子供も大人も皆あなたの手で接吻するでしょう
私はあなたにカスティリヤの要塞と平原を与えましょう》

- 679 悲しんで気落ちしていた夫人は
この知らせに喜び、満足しました
彼女はカスティリヤに到着したのが分かると
彼女をしっかりと導いてくれた神に感謝しました

- 680 民が伯爵のところに着く前に
一人の騎士が先に来て、以下の事を知りました
伯爵がいかに喜んで満足していたか
そして王女を伴って、非常に疲労していたことを

- 681 カスティリヤの人々がこのことを聞くと
つまり君主が来て、確かにいることを
カスティリヤ人たちはこんなに大きな喜びを持ったことがなく
皆喜びを持って神に感謝を捧げました

- 682 彼らの喜びは非常に大きかったので、信じられないほどでした
彼らは力の限り走り

伯爵のところに着く前に彼を認め
近寄って、彼を抱きしめました

- 683 皆婦人の手に接吻しに行き
言いました、《我々は今は裕福なカスティリヤ人になりました
サンチャ王女様、あなたは良い時に生まれました
それ故我々は皆あなたを奥方として迎えます
- 684 あなたは私たちに恩恵を与えてくれました、そのようなものを
我々は受けたことはありませんでした
あなたが我々に良くしてくれたことをすべて語ることはできない
でしょう
.....
あなたがいなければ伯爵を取り戻すことはできなかったでしょう
- 685 あなたはカスティリヤを長い囚われの身から救ってくれ
全キリスト教世界に大きな恩恵を施してくれました
モーロ人には大きな苦痛ですが、これが真実です
この事すべてを神があなたに感謝するように》
- 686 皆男も女も大きな喜びで泣いていました
自分たちは死んで復活したと思っていました
天の王を祝福し褒め称えました
彼らの涙は大きな喜びに変わりました
- 687 皆ビルフォラドに戻りました

—その町は伯爵領の端にありました—
 非常に腕の立つ鍛冶屋がすぐに呼ばれ
 フェルナンド伯爵は鎖から解放されたのでした

688 彼らはできる限り早くブルゴスに向かい
 そこに着くや盛大な結婚式を挙げました
 すぐに祝福を受け
 大人も子供も皆非常に大きな喜びに包まれました

689 騎士達は皆高櫓を目掛け
 従者達はゲームやチェスに興じ
 他方従者達は牛を殺していました
 そこには多くのキトラ¹⁰⁸⁾があり、多くの豎琴奏者がいました

690 人々はこれ以上ない喜びようでした
 カスティリヤの人々には一つではなく、二つの祝い事がありました
 一つは彼らを取り戻した主君のための
 もう一つは伯爵夫妻が結婚の祝福を受けた事です

691 結婚式が終わる前に
 —始まってから八日は経っていませんでした—
 フェルナンド伯爵のもとに別の知らせが届きました
 ガルシア王が非常に多くの臣下を連れてやって来ると

692 伯爵がこの事を知ると、すぐに使者を送りました

次から次へと書簡と使者が送られ
直ちに歩兵と騎士が来るようにと
良き従者の良き仲間を連れて

693 伯爵は直ちに臣下に武装するように命じ
武装するとそれを見に行きました
伯爵領の端に行くことになり
皆その戦いに出発しました

694 軍は素早く用意が整えられました
それは彼の手慣れた仕事だったのです
ナバラ人達の王はすっかり準備ができていて
両軍は激しい戦闘を始めました

695 我々が書で読むところによると 一伝説がそう言っているのです
が—
戦いは半日拮抗状態でした
皆疲れ、戦闘にうんざりしていました
ナバラ人達がもう少しで優位に立つところでした

696 ナバラ陣営が優位に立ち
多くのカスティリヤ人がそこで命を落としました
彼らは投げ槍と槍で多くの傷を負い
僅かの時間で多くの血が流れました

697 フェルナンド伯爵がカスティリヤ人達が崩れたのを見ると

—彼らが疲れていて皆後退したのを見て—

彼らは言葉で激しく叱責されました

《我々の所為で生きている者とこれから生まれる者が今日世界を失うことになる

698 君達がこのように負けることを望んだにしても

私は君達を望むと望まざるとに関わらず善人にしよう

もし私が死んだら、君達は生まれてきたことを後悔するだろう

なぜならそのことによって君達は裏切り者として知られることになるだろうから》

699 彼らは伯爵の叱責を受けたくはありませんでした

彼らは言いました：《我々はむしろ皆ここで死にたいのです

伯爵からこのことで叱責されるよりも

我々は決してしくじったことのないことをしくじりたくありません》

700 彼らは戦場に戻り、戦おうとしました

逃げようとしなかった男達として

主のいない多くの馬が出ました

遠くに攻撃の音が良く聞こえたでしょう

701 凜々しい心を持った誇り高い伯爵は

平原のただ中に（王である）義理の兄弟がいるのを見ました

手に槍を持って彼にむかって行き

言いました：《兄弟、我々二人で戦いを終わらせよう》

- 702 二人はお互い知る敵同士で
怒りに任せて攻撃し合いました
槍の穂先を下げ、軍旗を広げて
直ちに盾に激しい攻撃を加え合いました
- 703 カスティリャの君主はガルシア王を負傷させました
非常な傷だったので王は鞍から落ちました
槍全部が胸の真ん中を貫いたので
背中からその先端が見えました
- 704 フェルナンド伯爵は王を力づくで捕らえました
ナバラの民は彼を護ることができませんでした
王はブルゴスの町に連行され
伯爵は直ちに彼を鎖に繋ぐように命じました
- 705 王は九十二ヶ月鎖につながれていました
牢はこれ以上ないほど劣悪なもので
他のどんな囚人とも交換されませんでした
拷問したのも不思議ではありませんでした
- 706 伯爵夫人はこの事を正しくないと思いました
—フェルナンド伯爵の妻として—
自分の兄弟を囚われの身として難儀させるのを
というのは彼は非常に良き王で、非常に豊かな治世を敷いていた
ので

- 707 彼女はこの時カスティリヤ人達と話し
 わずかな言葉で非常に筋の通った事を言いました
 《カスティリヤ人達よ、王をこの牢獄から出しましょう
 なぜなら今日ナバラ人達が私に嘆いているので
- 708 私はカスティリヤの伯爵を牢から出しました
 今伯爵は私に対してこんなにも卑劣です
 私の兄弟を牢から出そうとしないのですから

- 709 これがあなた達に願った私の一番の願いです
 伯爵に頼んで、あなた達に兄が受け入れられるように
 兄を牢から出すことで、冷酷にならないように
 そしてもしこうしてくれるなら、兄はあなた達にずっと感謝する
 でしょう》
- 710 彼らは伯爵のところへ行き、話し始めました：
 《ご主人さま、どうか私たちの話を聞いてください
 私たちはあなたの義兄弟である王を乞いに来ました
 彼をナバラに行くために解放してくださるように
- 711 伯爵さま、そうする事であなたは非常に大きな慈悲を施す
 ことになるでしょう
 あなたのこのことを知ったすべての人はあなたの人となりを知る
 でしょう
 その上お知りおきください、それが私たちに幸運をもたらしたの

です

ご主人さま、そうなされなければ人々は我々に恨みをいだくことになるでしょう》

712 彼らは伯爵と道理を分けて大いに話しました
—彼らは皆まとまって、心を一つにしていました—
伯爵は彼らに答えて言いました：《私の男達よ、
君達は小郷士のように話した

713 君達がそう望むのだから、しかもこんなにも強硬に
^{おおこと}大事かもしれないが、喜んでそうしよう》
伯爵は直ちに良きガルシア王を解放する事を命じました
人々が王の鎖を解くと、彼は立ち去りました

714 王が立ち去る前に人々は王が喜ぶ事をしました
伯爵もカスティリヤの人々も進んでそうしました
王に必要なものをすべて用意したのです
ナバラの王は感激しました

715 良き王ガルシアはナバラに着くと
王国の首都であるエステリヤに向かい
家来達にすぐにそこに来るように命じました
皆がそこに行くと次のように話しました

716 《友たちよ、君達は私がどんなに辱めを受けたか知っている
フェルナンド伯爵とその全領民によって

私の不名誉は君達の不名誉だ、そしてそのように語った
私が命を落とすか、奴に復讐するかだ》

717 我々はナバラ人たちは争わせておいて
伯爵に戻りましょう、彼は休む暇なしです
レオン王サンチョは良き伯爵に使者を送りました
モーロ人が侵入して来たので助けて欲しいと

718 伯爵がこれを聞くと、伯爵領に命令を出しました
領民はすべて武装して彼のもとに来るようにと
伯爵は何人かの騎士を伴ってすぐさま動きました
彼らは遅滞なくレオンに赴きました

719 レオン王が伯爵を見ると
大歓迎で彼を迎え、心から喜びました
ちょうど良い時に来たと思ったからでした
そしてそこにいるすべての人が大いに喜びました

720 八日経ってすべての人が出揃いました
伯爵と彼の騎士たちはすぐに意見の一致を見ました
三日目にモーロ人を攻めると
《待機しているよりこの方が良いだろうから》

721 モーロ人がこの作戦を知ると
いかにそこに伯爵と大勢の騎兵隊がいたのかで分ったのですが
コルドバのモーロ人の王はその日のうちにすぐ

その町の包囲を解き、去りました

- 722 王はそこを離れサアゲン¹⁰⁹⁾を包囲に行き
全カンボス¹¹⁰⁾を襲撃し、略奪を始めました
この知らせが伯爵のもとに届くと
彼は全味方と馬にまたがることにしました
- 723 レオンの仲間たちは素晴らしい騎士で
伯爵と共に出発し、彼を警護するつもりでした
しかし良き伯爵はこれを好まず、彼らに引き返すよ命じました
レオン人たちはこれを非常に残念に思いました
- 724 フェルナンド伯爵は全家臣と共に
サアゲンに来て包囲を見ると
モーロ人に激しい大攻撃をかけました
ただちにその日の内に町は包囲を解かれました
- 725 モーロ人は全カンボスを襲撃して略奪し
多くのキリスト教徒の民を虜にして連れ去っていました
そして雌牛も雌馬も他の家畜も
多数持ち去ったのでその数は数え切れないほどだったでしょう
- 726 嘆きと悲しみは大変なものでした
親や子供や祖父母は捕らえられました
モーロ人は母親たちや腕に抱かれた子供たちを殺し
父親たちをその小さい息子たちと共に殺しました

- 727 モーロ人は喜び勇んで大略奪を働いていて
非常に疲れて歩けないほどでした
良き伯爵が彼らにすぐに追いつけると
彼らは皆伯爵の到来にひどく驚きました
- 728 伯爵は直ちに彼らに攻撃をかけ、休む間を全く与えませんでした
餌を求める飢えたワシのように
モーロ人がカスティリヤの名が叫ばれるのを聞くと
できることなら、コルドバにいたいと思いました
- 729 モーロ人は嫌々すべての略奪品をそこに残しました
逃げるができるものは幸運だと思いました
コルドバの王は不運にもそこに残り残されましたが
そこから逃げ出せた時にはマホメットを賛美しました
- 730 勇気の源であるフェルナンド伯爵は
策士で、教育があり
異教の民々に大きな罰を下して
満足のいくまで彼らを攻撃し、殺しました
- 731 伯爵は死んだ者たちを送り返すことはできませんでした
彼はモーロ人に戦利品を全く持ち帰らせず
すべての捕虜に故郷に帰るよう命じました
彼らは言いました：《フェルナン・ゴンサレスよ、神があなたに
統治させるように》

- 732 フェルナンド伯爵は全家臣と
 捕虜を家に帰らせると
 —全く彼は非常に良い遠征をしたものです—
 彼はレオンに、良き王のところへ直ちに帰りました
- 733 伯爵はレオン人たちが怒り狂っているのを発見しました
 伯爵と一緒に行けなかったので、不満なのを発見したのです
 お互いにひどく罵り合いました
 というのはそこで疑いなく悪魔どもを支配できると思っていたか
 からです
- 734 ナバラ生まれのレオンの女王は
 カスティリャ人たちの不倶戴天の敵でした
 彼女の兄弟を殺したので、彼らの大凶を願っていたのです
 彼らを殺すことしか考えていませんでした
- 735 彼女は進んでカスティリャ人たちの面目を潰そうとしていました
 できるなら兄弟の復讐をしたいと思っていて
 レオン人たちを焚きつけてカスティリャ人たちと戦うように仕向
 けました
 それで誰も彼女を責めることはできませんでした
- 736 事は両方から火がつきました
 女王はそれを知って自分は守られていると思いました
 悪魔はそこに非常に大きなもめ事を仕組みました
 しかし良き王によって争いは収められました

- 737 両者は互いに激しく罵り合い
皆お互いに対決しました
カスティリャ人たちは故郷に帰り
二年間宮廷に呼ばれませんでした
- 738 良き伯爵はレオンに使者たちを送り
王に金を払うように頼みました
サンチョ王は言いました：《私の役人たちは外に出ています
帰って来たら、我々は最初の支払いをします》
- 739 使者たちが伯爵のもとに戻ってきて伝言を伝えました
王が喜んで金を払うと言っていると
しかし王の元にはまだ支払い金は届いていませんでした
それ故金は遅れました
- 740 伯爵はこんなに遅れるのをとても喜びました
欲しいものが手に入るだろうと思いました
遅れればそれだけ手に入れることができるだろうと踏んだからで
す
経過する時間を喜んでいました
- 741 良き王サンチョ・オルドニェスは非常に長い時間かかりました
支払期限の後3年が経ちました
この期間借金が非常に増えたので
ヨーロッパのすべての人でもそれを払うことができなかったでし
ょう

- 742 サンチョ・オルドニェス王をここに残しておきましょう
王は良き伯爵に払うために金を送りました
フェルナンド伯爵はそれを受け取ろうとせず
事はこのままになりました
- 743 我々はすべてを置いてナバラにもどりましょう
ナバラ人たちから我々はまだ離れることができません
書にあるように、我々が足跡を残してきた所です
我々はエステリヤ¹¹¹⁾に残してきたのです、そこで始めましょう
- 744 ナバラ人たちの王は宮廷で
すべての仲間たちに非常に激しく不平を述べていました
フェルナンド伯爵が彼にした悪行について
.....
- 745 王は彼らにそのような事には耐えたくないと言いました
悪党の小伯爵からこのような損害を被るなんて
そしてまた彼とは協定を結びたくもない
むしろ死ぬか復讐することを望む
- 746 王は全軍を率いてエステリヤから移動し
カスティリヤに向かい、略奪を始めました
その時伯爵はレオンに軍を進めようとしていました
その地にはそれを護るものが誰もいませんでした
- 747 王は全ブルエバ¹¹²⁾と全ピエドララダ¹¹³⁾を荒らし

良い土地だとされているオカの山々を荒らし
パンがよく行き渡っているオビエルナ河岸地帯¹¹⁴⁾を荒らし
ブルゴスの入り口で野営しました

- 748 王はもしできるなら伯爵夫人を連れ去りたいと思いました
伯爵の面目を潰せればと思って
しかし伯爵夫人は賢明な人で、自分をよく守ることを知っていました
王と会おうとせず話すことも望まなかったからです

- 749 王が伯爵領を荒らし略奪すると
一兵は多くの戦利品と多くの家畜を持ち去りました—
莫大な利益を得て自分の王国に帰りました
しかしわずかな時間で高い代償を払うことになりました

- 750 フェルナンド伯爵がカスティリャに帰ると
自領が荒らされ略奪されたのを見ました
家畜と人間の多くが連れ去られたのを見て
心が痛み、非常に怒りました

- 751 フェルナンド伯爵は直ちに王に挑戦状を送りました
持ち去ったものを返す気がないなら
ナバラに自分の家畜を探しに行くと
そして誰が彼を守ってくれるのか見ようと

- 752 騎士がガルシア王のもとに着くと

良き使者として使命を果たしました
王は彼に一文も与えないが
挑戦はとても嬉しいと言いました

753 双方とも話を長引かせようとせず
できるだけ早く軍を集め
各々大勢の兵を動員したので
王とフェルナンド伯爵はお互いを探して歩きました

754 双方険しい谷に集結しました
ウサギ狩りをするのに良い場所です
人々はそこで真紅に染めるのに使うエンジムシをたくさんをとり
ます
足下には荒れ狂う大河エプロが流れています

755 皆そこをバルピレ¹¹⁵⁾と言い、そのように呼んでいました
そこで伯爵と王は相見え
両者はそこで対峙しました
そしてそこで激しい野戦を始めました

756 戦いはこれ以上なく激しく、勇ましいものだったでしょう
立つも倒れるもすべてそこにあったからです
伯爵も王もこれ以上はできないくらいでした
両軍すべての力を出し尽くしました

757 戦いは大々的なもので、騒音はもっとすさまじいものでした

人が大声を出しても聞こえなかったでしょう
 聞こえたのは雷鳴みたいなもので
 人の声も叫び声も全く聞こえなかったでしょう

758 攻撃はこれ以上すごいものはなかったでしょう
 お互いその力を出し合いました
 多くの者が地に倒れ、決して起き上がりませんでした
 血の川が多くの地を覆いました

759 ナバラの騎士たちはとても勇敢で
 どの地でもすごいと認められたでしょう
 男たちは非常に価値ある、誇り高い者たちです
 しかし不幸者たちは皆伯爵に敵対していました

760 神は良き伯爵にこのような恵みを与えようとしてしました
 モーロ人もキリスト教徒も彼を打ち負かすことはできないという
 ガルシア王は全軍とともに敗れました

.....

完

注

- 99) Sancha 王女のこと
- 100) フランスからピレネーを超えて Santiago de Compostela に至る巡礼街道
- 101) Acre イスラエルの古い港町
- 102) Damiata エジプト・ナイルの港町
- 103) Arlançon Burgos 東部の町でフランス街道上にある
- 104) Burgos 東部の山脈

- 105) Burgos にある町の古名、現 Belorado
- 106) 古い距離の単位、約 5572 m
- 107) Pamplona の García Sánchez 王のこと
- 108) 古代ギリシャの弦楽器
- 109) Sahagún León 地方のフランス街道上の町
- 110) León と Palencia の間の地方で Tierra de Campos と言われる所
- 111) Estella Navarra の町
- 112) Burueva Alava との境界
- 113) 上記にある地方 Piedralada
- 114) スペイン北部を流れる Arlanzón 川の支流
- 115) 現在の Valpierre

参考図書・辞書

- Edición de Fernán González EDICIONES CATEDRA, S. A. Madrid 1981
- THE POEM OF FERNÁN GONZÁLEZ P. Such and R. Rabone OXBOW BOOKS 2015
- THE POEM OF FERNÁN GONZÁLEZ Edición H. Salvador Martínez Colección Austral 1995
- Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
- Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfospolis 2002
- Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A. Kasten and Florian The Hispanic Seminary of
Medieval Studies New York 2001
- Larousse Universal diccionario enciclopédico Librairie Larousse París 1968